

緑にこだます音楽の里

2002

4

平成14年

April No.372

<http://www.kawamoto-town.jp/>



新年度予算には新たに、共働き家庭の児童を預かる「放課後児童クラブ」事業も盛り込まれました。
(写真は川本小学校)

特集 24

町の新年度予算決まる 子育て支援や 高齢者福祉に重点

本年度の当初予算は、
税収入の減少や基金残高
が激減する厳しい財政事
情を背景に、給与関係経
費の削減や事務事業経費
の徹底した縮減を図って
います。一方、「活力と
潤いに満ちたゆうあいの
郷里かわもと」を将来像
として策定された「第四
次川本町総合計画（平成
十四年度～二十三年度）
」に基づく課題事業につ
いて、積極的に取り組むこ
ととしています。

川本町議会三月定例会で、平成十四年度の一般
会計・特別会計当初予算が可決されました。一般
会計の規模は、四十六億一千八百六十五万円。前
年度当初予算に比べて二億五千九百三十八万円の
増となり、五年ぶりの増額予算となりました。経
費全般の徹底した節減を図る一方、次代を担う子
どもの環境づくりに着目した新規事業などを盛り
込んだ予算内容を特集します。

主な新規事業

高速インターネット環境整備事業	21,926千円
特定農山村地域活動支援事業	10,200千円
養護老人ホーム建設事業	434,000千円
放課後児童対策事業	6,685千円
ブックスタート事業	59千円

町 当初予算

特集 24 新年度予算決まる

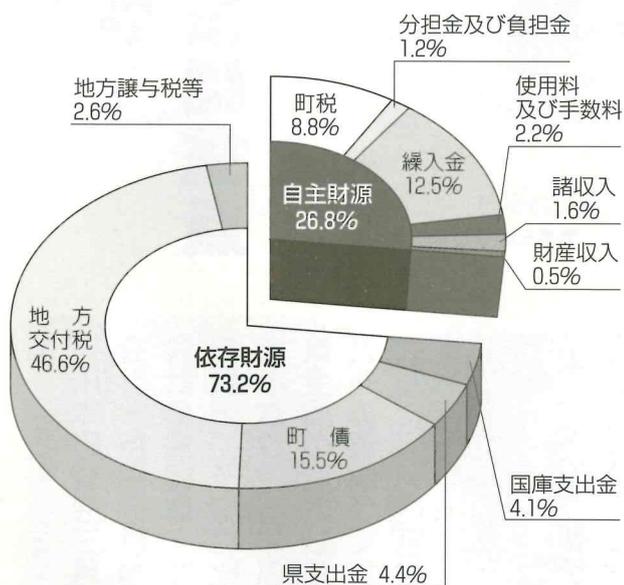
歳入



■歳入内訳

(単位：千円、%)

	予算額	構成比
自主財源	1,237,894	26.8
町 税	407,005	8.8
町 民 税	183,123	4.0
固 定 資 産 税	189,444	4.1
そ の 他	34,438	0.7
分担金及び負担金	55,536	1.2
繰 入 金	579,523	12.5
使用料及び手数料	99,703	2.2
諸 収 入	73,869	1.6
財 産 収 入	22,258	0.5
依存財源	3,380,761	73.2
国庫支出金	190,363	4.1
県 支 出 金	202,098	4.4
町 債	716,200	15.5
地方交付税	2,150,000	46.6
普通交付税	2,000,000	43.3
特別交付税	150,000	3.3
地方譲与税等	122,100	2.6
合 計	4,618,655	100.0



―歳入―

大幅な財源不足

歳入は、二十一億五千万円を見込む地方交付税が全体の四六・六割。町税収入は、前年対比四・五割減の四億七百万円を見込んでおり、財政事情は極めて厳しい状況にあります。

大幅な財源不足が生じたため、基金から五億七千八百七十五万円を取り崩したり、臨時財政対策債（いわゆる赤字地方債）を、前年度の約二・二倍にあたる一億四千万円として発行し対応しています。

―歳出―

放課後児童クラブ 開設へ

開設へ

新規事業では、学校完全週五日制の導入など、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した事業に力を入れています。

国が小・中学校の空き教室

特集24 新年度予算決まる

平成14年度
一般会計

歳出

■性質別歳出の状況

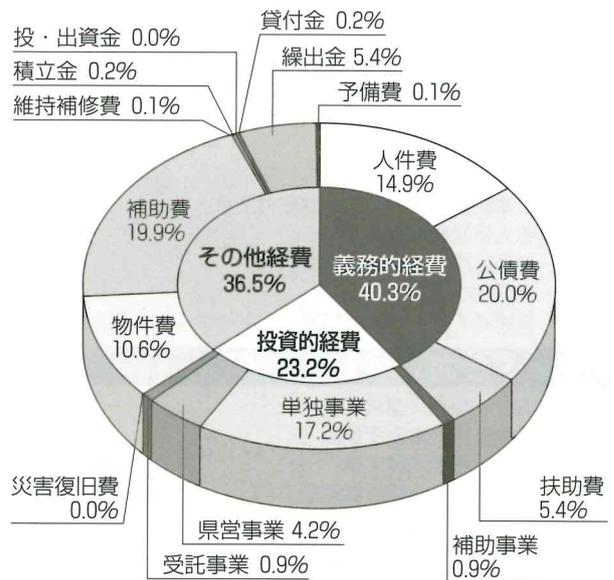
(単位：千円、%)

区 分	当初予算額				
	平成14年度	平成13年度	増減額	増減率	構成比
義務的経費	1,861,776	1,844,641	17,135	0.9	40.3
人件費	691,057	717,077	△26,020	△3.6	14.9
公債費	921,620	894,456	27,164	3.0	20.0
扶助費	249,099	233,108	15,991	6.9	5.4
投資的経費	1,070,543	804,682	265,861	33.0	23.2
普通建設事業費	1,070,543	804,682	265,861	33.0	23.2
補助事業	42,062	18,250	23,812	130.5	0.9
単独事業	793,881	446,547	347,334	77.8	17.2
県営事業	192,150	265,045	△72,895	△27.5	4.2
受託事業	42,450	74,840	△32,390	△43.3	0.9
災害復旧費	0	0	0	0.0	0.0
その他経費	1,686,336	1,709,947	△23,611	△1.4	36.5
物件費	487,856	483,681	4,175	0.9	10.6
補助費	917,874	1,004,310	△86,436	△8.6	19.9
維持補修費	7,042	6,200	842	13.6	0.1
積立金	11,040	2,930	8,110	276.8	0.2
投・出資金	0	1,000	△1,000	△100.0	0.0
貸付金	8,728	8,836	△108	△1.2	0.2
繰出金	250,796	199,990	50,806	25.4	5.4
予備費	3,000	3,000	0	0.0	0.1
合 計	4,618,655	4,359,270	259,385	6.0	100.0

■目的別歳出内訳

(単位：千円、%)

区 分	平成14年度			
	当初予算額	構成比	増減額	増減率
議会費	68,967	1.5	△1,023	△1.5
総務費	790,649	17.1	60,536	8.3
民生費	1,014,191	22.0	460,658	83.2
衛生費	426,402	9.2	9,521	2.3
農林水産業費	491,559	10.6	△43,152	△8.1
商工費	8,178	0.2	△3,288	△28.7
土木費	403,382	8.7	△218,792	△35.2
消防費	129,712	2.8	6,709	5.5
教育費	360,995	7.8	△38,948	△9.7
災害復旧費	0	0.0	0	0.0
公債費	921,620	20.0	27,164	3.0
予備費	3,000	0.1	0	0.0
歳出合計	4,618,655	100.0	259,385	6.0



全国的に広がっている**ブツクスタート事業**にも取り組みます。
これは、乳幼児健診などの機会に、赤ちゃん用の絵本や子育て情報を入れたセットを

☆ ☆ ☆

本町では川本小学校の空き教室に、専任の指導員を配置。安心して子どもを預けられるよう配慮していきます。

これは共働きなどで昼間、保護者のいない家庭の小学校低学年児童を対象に、放課後や学校の長期休校中に、適切な生活や遊びの場を提供し、健全な育成を図るものです。県内では平成十三年度末現在、学校や公民館などを活用して二十六市町・七十二カ所で開設されています。

これを利用した子育て支援の整備を進めるのを受けて、川本小学校を拠点に、**放課後児童対策事業（放課後児童クラブ）**に取り組みます。

特集 24 新年度予算決まる

平成14年度の主要事業

未来を切り拓く産業のまち

- ・中山間地域等直接支払交付金事業
- ・商工観光事業
- ・有害鳥獣対策補助
- ・特定農山村地域活動支援事業
- ・転作奨励作物振興補助
- ・農業公社運営補助
- ・造林事業
- ・集落営農推進対策補助事業

人間性を育む個性豊かなまち

- ・図書購入、図書館運営
- ・国際交流員事業
- ・姉妹都市交流事業
- ・定住奨学金貸付事業
- ・山間過疎地域リーダー研修研究会補助
- ・川本町文化振興財団運営補助
- ・川本高校支援対策補助
- ・広域隣保活動事業
- ・悠邑ふるさと会館事業
- ・文化振興事業
- ・特色ある学校教育推進事業
- ・生涯学習、生涯スポーツ振興
- ・語学指導助手招致
- ・音戯館管理

思いやりに満ちた福祉のまち

- ・介護予防、支援事業
- ・介護保険事業
- ・保育所措置、補助
- ・川本駅公衆便所スロープ取付工事
- ・老人保健健康診断委託
- ・身障施設措置等援護
- ・邑智病院負担金
- ・養護老人ホーム入所措置

安らぎと潤いのあるまち

- ・スクールバス運営
- ・三原多目的集会所建設
- ・三島三谷線改良工事
- ・合併処理浄化槽設置補助
- ・宅地等水防災対策事業
- ・広域中山間事業負担金
- ・林道川本布施線開設事業
- ・県営農道負担金
- ・県消防操法大会出場費用
- ・県道改良事業負担金
- ・農業集落排水処理施設運営
- ・音楽の町定住奨励金
- ・飲料水確保対策補助

自然を尊重するまち

- ・ごみ、し尿処理場負担金
- ・ごみ収集ステーション設置
- ・生ごみ堆肥化装置設置補助金
- ・町内主要河川水質検査

町民と行政が力を合わせるまち

- ・一般コミュニティー助成事業
- ・火葬場運営費
- ・邑智郡広域振興財団

親に手渡し、読み聞かせを通して、本を読むきっかけや親子のふれあいを促すものです。かわもと図書館の職員や読書ボランティアが協力して、子育てに頑張るお母さんたちをサポートしていきます。



高速インターネット環境を整備

投資的経費は、平成九年度をピークに行った大型事業の起債元金償還が始まっていることによる財政悪化もあり、新規事業は取り組みにくい状況です。

新規事業では、地域自立に向けた生活基盤の整備として、江川荘の老朽化に伴う養護老人ホームの移転建設補助事業や高速インターネット環

境整備事業に着手。

継続の道路整備事業や定住対策事業などについても重点配分しています。

厳しい財政状況の中、次代を担う子どもの環境づくりや情報化、少子高齢化への対応などに配慮した予算内容となっています。

財政の健全化にむけては「財政健全化計画」を策定して取り組むことになっています。具体的な内容については次号でお知らせします。

特別会計

国民健康保険事業特別会計	449,791千円
老人保健事業特別会計	879,197千円
住宅新築資金等貸付事業特別会計	50千円
簡易水道事業特別会計	133,657千円
農業集落排水処理事業特別会計	118,068千円

特集 24 新年度予算決まる

インタビュー

町の新年度予算で新たに「放課後児童クラブ」が誕生することになります。学校完全週五日制の導入を契機に、各自治体が重視している事業です。放課後児童クラブではどのような活動をするのでしょうか。浜田市内にある「かもめ学級放課後児童クラブ」の指導員に聞きました。

—今年で開設七年目を迎えるそうですね。どのような雰囲気ですか。

「ランドセルを背負った子どもたちが『ただいま』と部屋に入ってきます。元気な顔を見るとホッととして、母親みたいな気分で『お帰りなさい』と声をかけます」

「児童クラブは学校でも家庭でもない居場所ですが、家庭的な雰囲気の中で子どもたちと接するよう心掛けています」
—子どもはどのように過ごしているのでしょうか。

「学校終了時から五時頃まで、

宿題や自由遊びをして過ごします。三年生が年下の子どもとの宿題を見たり、遊びのリーダーシップをとったりと、まるできょうだいみたいです。おやつや掃除の時間もあります」
「危ないところで遊ばない▽く

「児童クラブは、
子どもの精神や健康を
育む栄養の「一つ」



浜田市立国府小学校
かもめ学級
放課後児童クラブ
指導員
三浦恵子さん

つやランドセルを決まった場所に片付ける▽物を大切に—など『かもめルール』もあります。小学校低学年は成長過程でも大切な時期。集団生活の中で、社会性や協調性を育んでいくことも大切です」

—工夫していることは。
「ここは小学校の体育館の二階にある一室。遊び場は体育館のフロアや校庭などふんだんにありますが、指導員二人で、誕生会や季節の行事も積極的に開いています。子ども

たちに充実した時間を提供すること、大人になってから『楽しかったね』と懐かしんでもらうとうれしいですね」

—保護者とのかわりも大切でしょうか。

「学級だよりを出したり、二十七人の子どもの一人ひとりに、連絡帳があります。私たち指導員が、その日の出来事や健康状態などを毎日、保護者あてに書いて子どもに渡します。保護者からの返事を読むと『家ではやんちゃなのに掃除を頑張ったのですね』『仕事に集中できるし帰宅後、子どもとのかかわりに気持ちのゆとりができます』と安心しておら

れる様子がかがえます」
—学校との連携はいかがですか。
「日誌を毎週一回、学校へ提出しています。子どもの様子やかかわり方について、担当の先生ときめ細かく相談しています」

—本町で開設する児童クラブにアドバイスがあれば、聞かせていただけますか。

「児童クラブで過ごす時間が、子どもの精神・健康面の『栄養』の一つになるよう、さまざまな工夫をする必要があります。そのためには、他の児童クラブと情報交換をしたり、研修に参加することが大切ですね」

「私のクラブでは昨年度初めて、子どもや保護者と一緒に手作りの『文集』をつくりました。一年間の活動記録や将来の夢、親から子へのメッセージなどが書かれています。こうした地道な取り組みが、より良いクラブにしていく上で大切なことではないでしょうか」
—ありがとうございました。

安全運転をこころがけて

春の交通安全運動を展開 4/8



運転者に安全運転を呼びかける交通安全母の会

春の交通安全運動（四月六日～十五日）の一つとして、町交通安全対策協議会や交通安全母の会では、警察署や自動車整備組合などの協力を得て、因原のインフォメーションセンター前に「交通安全テント村」を開設しました。

交通安全母の会が呼びかけるチラシやガム、三谷長寿会の会員が作った和傘のマスコットなどを入れた袋を百五十ほど用意。「安全運転をしてくださいね」と、道行くドライバーに手渡しました。

十日間の運動期間中、同協議会では、保育所や幼稚園で交通安全を呼びかける映画上映、交通安全自動車パレード、メッセージ伝達などを行い、交通安全に対する気運を盛り上げました。



川本の思い出に 記念植樹

3/28

料理づくりをとおして、地元住民と通勤族との交流を図る「お父さんの料理教室」の会員が、通勤などにより別れの時期を迎え、記念の植樹を行いました。

川本で親睦を深めた記念にと、昨年から実施しているものです。会員たちは町内谷戸の県道沿いに、八重桜や紅梅を10本ずつ植樹。名札をくくりつけて、再会を誓い合いました。



舞台から ふるさと自慢

2/8

悠邑ふるさと会館の開館5周年を記念して、同会館でNHK番組「どんとこい民謡」の公開録画がありました。同番組は、俳優・峰竜太さんが司会を務め、全国放送されている人気番組です。

舞台では、プロの歌手が張りのある歌声で民謡を披露。曲の合間には、ふるさと自慢コンテストもあり、三原田植えばやし保存会や川本神楽団が勇壮な舞などを披露しました。

中山間地域集落維持・ 活性化緊急対策事業

シリーズ① 集落の活性化を目指して

この事業は、高齢化率の高い集落が地域活性化に向けた活動に取り組む際、県が最高百万円を交付するものです。これまでに承認を受けた集落を紹介しています。

担当：役場企画財政課

多田 料理教室の開催、クロリテイー・ペタンクでの交流

下尾原 盆踊り等イベントの充実（イベント用備品の購入）

小谷 交流拠点の整備（集会所の改修）

鉄穴谷 ふれあい市の開催（農産物や加工品の販売）

下川内 交流拠点の整備（集会所の新築）

上・中三島 フラワーロード花づくり拠点施設整備

正蓮寺 交流拠点の整備（集会所の改修、周辺の舗装）

国際交流コーナー

いい
天気ですね!



こんにちは！川本町国際交流員のアレックスです。

今月は正直言って、何について書けばいいか、思いつかなかった。

最初は天気について、何か書こうかなと思っていた。

確かに今年は桜が早めに咲いたし、温暖化の影響が明らかになっている証明の一つかもしれない。しかし、去年の春に同じような記事を書いたので、結局イギリスと日本の気候を比較するという話をまたするのは、ちょっとつまらないなと思った。

そして、なぜ天気のことについて書こうと思ったか、考えはじめた。

日本人はすぐ、あいさつがわりとして天気の話をすると言われている。つまり、何について会話しようかと思いつかない時に、とりあえず天気の話をしようということだ。これは日本の独特な行為だと思っていらっしゃる方も少なくないと思う。

けれども、実はイギリスでも全く同じ習慣がある。多くのイギリス人も、これはイギリス人ならではの行為だと思っていると言えるほどだ。店の店員やばったり会った知り合いと、あいさつ以上に簡単な会話を交わすのに、とても便利だと思う。

日本では同じ習慣があるので、私はイギリス人として安心した。

住宅見学や伝統芸能体験

しまね暮らし発見ツアー 4/1~4



インフォメーションセンターでの見学風景

U・イターナー者の定住を促す「しまね暮らし発見ツアー」が川本、桜江の両町であり、東京や神奈川、広島などから九人が参加。施設見学や伝統芸能の体験をおし、地元住民とふれあいました。中山間地の暮らしを体験することで定住につなげようと、ふるさと島根定住財団が企画。初日は担当者から、町の概要について説明を聞いたあと、定住住宅や学校、商店など生活関連の施設を見学。二日目は降は二班に分かれ、川本の江川太鼓や桜江の神楽を体験しながら地元住民と交流を深めました。横浜市から参加した四十代の女性は「定住の大きな条件は、住まいと仕事の確保。仕事が見つかれば自然豊かな田舎で暮らしたい」と話していました。



地域行事の充実に向けて法被やテントなどを購入した下尾原地区

川本町立三原小学校

新学期が始まり、完全学校週五日制や「総合的な学習の時間」が本格的にスタートしました。新しい学習指導要領は、「生きる力」を強調し、学校と地域との連携をより求めています。転換期を迎えた教育現場の取り組みを特集します。

「ふるさと学習」で 課題を発見

もち米づくりをとおして農業を体験しよう。

三原小学校（岩田進校長・三十人）では平成十一、十二年度の二年間、県の『スクール・パワーアップ事業』の指定を受けて、身近な暮らしを教材に体験教育を重視した「ふるさと学習」に取り組みました。

具体的には、農業を営む地元住民の協力を得て、全校児童がもち米づくりを体験。田植えや田車まわし、稲刈り、稲こぎなどの手ほどきを受けました。冬には高齢者を招き、わら細工づくりに挑戦したり、すこやかセンターに向いて、デイサービスの利用者と一緒に餅つきを楽しみ、

世代間交流を図りました。

ふるさと学習は子どもたちにとって、さまざまな課題の発見にもつながりました。

三、四年生では、米づくりをはじめ日常生活に欠かせない水についての知識を深めようと、

身近な暮らしを教材に 体験学習を重視

役場の協力を得て水道学習教室を開催。

「三原の水はどこからくるのか」「年間どのくらいの水を使っているのか」などといった疑問を、水源地の見学や話を聞きながら理解していき



ました。

「ふるさと学習は、一人ひとりの『課題発見力』の育成に、有効な取り組みとなりました」

岩田校長は、新学習指導要領の導入を見据え、地域や関係機関と連携を図りながら取り組んだ学習展開を振り返ります。

国際化を見据えた 教育を実践

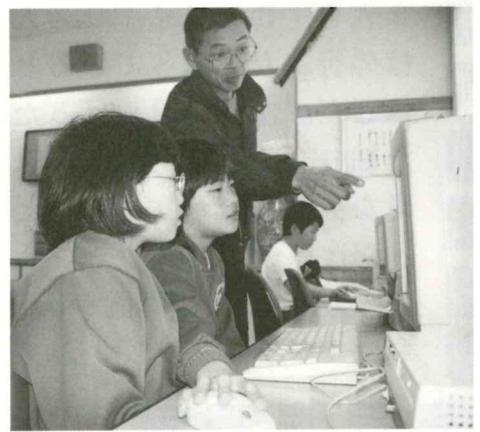
同校では、国際化へ対応した

います。

情報教育では、一人ひとりが各教科に必要な資料をインターネットで検索することにより、コンピュータの操作や活用慣れ親しむよう工夫しています。平成十二年秋にはホームページも開設。ふるさと学習の取り組みや各学級の話題などを情報発信しています。

「地域の豊富な教育資源を活用しながら、学力の質を高めていきたい」

同校では、地域連携を深め、社会をたくましく歩んでいく子どもを育成する教育を強調しています。



地域と歩む学校シリーズ③

三原小学校では、地域資源を生かしたさまざまな取り組みを行っています。そのねらいや進め方について聞きました。

「体験教育を重視した『ふるさと学習』では、どのような学習効果が得られたのでしょうか。」

「地元の方々の協力を得ながら取り組んだ農業体験では、米の作り方をはじめ、農業や自然環境に対する問題意識など、『実感』を伴った理解力や探究力を育むことができたと感じます。

三原地区に古くから伝わる『田植えびやし』などの伝統芸能に対する関心も高まったようです。

「ふるさと学習で養った学習力を、実生活で生かしたり、学年ごとに創意工夫をしながら各教科に取り入れる様子も見られました」

インタビュー



「地域ので育つ子どもの学力」

「新学習指導要領では、地域連携のもと、体験的な学習への取り組みが重要視されていますね。」

「そうですね。子どもの頃、私はよく友だちと宍道湖で遊びました。エビやシジミ漁に

「想の原点を育んでいると言えるでしょう。地域の協力を得るためには、学校の情報を積極的に開示する姿勢が必要です」

「本校では今年一月、初の地区懇談会を開き、地元の方々に直接、授業や課外活動に対する評価や意見を聞かせていただきました。寄せられた建設的な意見を、新学習指導要領の柱である『総合的な学習の時間』などに盛り込んでいきたいと考えています」

川本町立三原小学校 校長 岩田 進 さん

「土曜日をどのように過ごしたらいいのか、といった声も多く寄せられました。子どもを取り巻くさまざまな課題を、家庭、地域、保育施設、小・中学校、高校でどのように連携を図り、解決していくのか——、学校の情報を地域住民と共有し、計画・実践・評価の全ての過程

で、共に考えていく関係を築いていきたいものです」

「素晴らしい試みですね。今回の大きな教育改革は、一般的に学力低下につながるという指摘がありますが、本校では、一人ひとりの学習力の質を高める大きなチャンスと受け止めています」

「子どもたちが主体的に学び、実践できる力を身につけていくために、学校の創意工夫も問われています。教師の力量を高める研修は欠かせません。ゆとりの中で、子ども一人ひとりの個性とじっくり向き合っていく姿勢が必要です」

「小学校での学習は将来、社会に還元できる力を持つ大人を育成する通過点。地域や各機関と一層の連携を図り、豊かな心をもった人づくりを進めていきたいと思っています」

「ありがとうございます」

三原小学校ホームページアドレス

<http://fish.miracle.ne.jp/s-mihara/>

② 木路原地区「お楽しみ会」

地方分権の大きなうねりの中で、市町村合併の動きが加速しています。この新しい動きが求めているのは、住民・地域・行政の緊密な連携による役割分担です。特に、住民自身による創意工夫は、今後の地域活性化のカギを握っていると言われている。前回に引き続き、「住民パワー」をシリーズで紹介します。

シリーズ 合^{がつ}併^{べい}考^{こう} (10)

地域で、「手づくりの福祉」を創造

好評の、お昼ごはん

トントン、トンカラリンのとなりぐみ。

手遊びを交えながら、高齢者の楽しそうな歌声が室内に響きわたる木路原自治会館。木路原地区では、毎月第三木曜日に、ミニ・デイサービス「お楽しみ会」を開き、地域ぐるみで手づくりの福祉を創造しています。



毛糸を使って動物のマスコットづくり。町内では現在、6割の自治会でミニ・デイサービスが開かれています

参加者は、八十八歳を最年長とした高齢者など二十五人前後。運営は住民が主体となり、社会福祉協議会など関係機関の協力を得ながら行っています。みんなが楽しいひとときを過ごせるよう心掛けています。

ボールやタオルなどを使って体を動かすゲームや歌、健康チェック、マスコットづくり、介護をテーマにした劇や学習会など、毎回趣向を凝らした内容が盛りだくさん。

みんなで作るお昼ごはんも好評です。野菜天ぷらや茶碗蒸し、おすしなど季節の素材を生かし、ちよつと手間をかけたごちそうを囲んで食事をします。

「一人暮らしだけじゃ、家では簡単なおかずしか作らん。おしゃべりしながらのごはんはおいしい」「次はいつ、みんなに会えるんかいなあ」

参加者は、家庭的な雰囲気

の中での集いを楽しみにしています。



タオルを使った体操

みんなの アイデアで運営

同地区でお楽しみ会が始まったのは、平成五年七月。

「宅地のかさあげ工事により道路が整備されたことはありがたいですが、お年寄りの方が、畑などちよつとした場所でおしゃべりをする機会が減ってしまつて…」

地元で暮らす森山美智子さんは、家にこもりがちになった高齢者に交流の場づくりが必要と

「今後望まれる、 手づくりの住民自治」

21世紀の高齢者を取り巻く最も大きな課題は、元気なお年寄りや介護が必要なお年寄りなど全ての高齢者が、地域でどのように生きがいを持って暮らしていくのか、ということです。特に、少子高齢化や過疎化を先取りする島根県では、待ったなしの対応が迫られています。木路原地区のような住民主体の“手づくり福祉”は今後一層、必要となります。大きな理由は2つあります。

まず、高齢者問題への切り札として平成12年に介護保険がスタートしました。しかし、この制度は介護が必要な高齢者だけを対象にしており、対象から

島根県立大学
教授 田嶋 義介さん



外れた方をどのように支援していくのか、各地域や自治体の力量が問われています。

例えば、地域ぐるみで福祉のまちを目指す鳥取県西伯町では、町独自の取り組みをしています。介護保険にない仕組みとして、4級、5級ヘルパーとして登録された中・高校生や大人が、ボランティアで高齢者のお宅へ訪問。話し相手や遊び相手になることで、痴呆の予防や世代間交流を図っています。ここでユニークなのは、ボランティアした時間を町の『あいのわ（愛の輪）銀行』に預け将来、自分が必要なときに引き出してサービスを受け取ることができるというシステムをとっていることです。

次に、合併問題との関連です。国はその必要性を、地方分権、少子高齢化、財政難としており、特に大きな要素は財政難です。限られた自治体財政の中で、効率の良い住民サービスを提供していくには、NPO（非営利民間組織）活動のように、住民が自ら地域の課題に取り組む姿勢が望まれています。

地方分権には自治体自治と住民自治の2つの要素があり、今、問われているのは住民自治。それが最終目標です。その意味でも木路原地区のような活動は大切で、今後同じような取り組みが町全体に広がることが望まれますね。
(談)



介護の学習会

なってきたきっかけをこう話します。
森山さんは昨年秋まで二十一年間、民生委員として高齢者の支援に携わってきました。地元住民や、民生委員の活動をとおりして培った関係機関に場づくりを呼びかけ、住民の創意工夫で毎月一回、集会所を拠点に集いを開くことを決めました。福祉協力員や婦人会の方々の積極的な活動、また自治会でも、参加

者の負担を軽減するため経費を予算化し、財政面での支援をしています。
国が「地域福祉」の重要性を強調する中、高齢化が進む中山間地での先駆的な取り組みという高い評価を得て、平成八年には、活動の様子がNHK番組で全国放送されました。
「参加者の方々は長い人生経験で培ったさまざまな力を地元

に「恩返し」したいという気持ちを持ってもらえます。集会所での障子の張り替えや雑巾づくり、座布団の整理などはその表れでしょう」「会場までの交通手段など課題はありますが、これからもみんなのアイデアで交流の場をもっと意義あるものにしていきたい」
森山さんは十年目に向けた意気込みを話しています。



人事異動

平成14年度 川本町役場人事異動 (平成14年4月1日付け)

() 内は異動前

総務課

課長 西川 勝治 (農林振興課)
課長補佐 東間 宏之 (企画財政課)

企画財政課

主査 松井 紹憲 (総務課)

住民課

課長補佐 日笠 一郎 (農林振興課)
主任主事 伊藤 広龍 (水道環境課)

健康福祉課

課長補佐 城納 守 (建設課)

農林振興課

課長 佐々木 洋 (健康福祉課)
主査 山下 政美 (町農業公社)
課長補佐 原田 博文
(郡町村総合事務組合)
主任主事 鈴川ゆかり (教育課)

建設課

課長補佐 市川 健昭 (水道環境課)

水道環境課

課長補佐 米田 幸廣 (住民課)

教育課

課長補佐 山口 基昭 (農林振興課)
主幹 鉦 英俊 (企画財政課)
主事 三宅美智子
(教育課・川本小学校)

○転任

教育課 地域教育コーディネーター
佐藤 徹 (浜田教育事務所)

○転出

川本小学校教諭 天野 賢司
(教育課・地域コーディネーター)

○退職

[平成14年3月31日付け]

片山 亘 (総務課)

自衛官募集

幹部候補生

陸・海・空自衛隊の指揮官・幕僚・教官・研究員等となり、自衛隊の重要なポジションにつく幹部になるための要員です。

幹部候補生学校で教育を受け、入隊1年後、3等陸・海・空尉に任官します。

受付期間 平成14年5月10日まで
応募資格 日本国籍を有し、平成15年4月1日現在、22歳以上26歳未満の方ほか。

問合せ 自衛隊大田募集事務所
☎0854-82-1437

となりの町村

阿須那診療所が完成

老朽化に伴い、昨年8月から全面改築工事が進められていた国民健康保険直営「阿須那診療所」が3月8日に完成。4月2日から診療が始まりました。

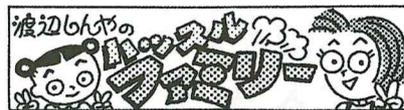
新たに建設された場所には、保育所や小学校、文化プラザなどが隣接し、子どもの健康管理や住民の利便性に配慮されています。

阿須那診療所

☎0855-88-0176



阿須那診療所



5月の保健行事

役場健康福祉課 ☎0855-72-0633

5月はポリオの
予防接種月です

- 1日(休)●リハビリ教室 14:00~16:00
すこやかセンター
- 9日(木)●子宮がん・乳がん検診 9:20~10:00
講話「女性に増えているガン」
10:30~11:30
川本公園管理棟
- 13:00~13:30
尾原高齢者センター
- 14:00~14:40
因原勤労者センター
- 14日(火)●乳児相談 13:00~14:00
すこやかセンター
- 成人健康相談

- 14:30~15:00
すこやかセンター
- 15日(水)●リハビリ教室 10:00~15:00
すこやかセンター
- 16日(木)●三原地区健康相談 9:30~10:30
朝日ヶ丘会館
- 10:45~11:30
親和集会所
- 17日(金)●乳幼児健診
すこやかセンター
- 13:00~ 1歳6ヵ月児
- 13:20~ 2歳2、3ヵ月児
- 13:40~ 4、5ヵ月児
- 14:00~ 3歳5、6ヵ月児
- 23日(木)●胃がん検診 6:50~7:40
尾原高齢者センター
- 8:30~9:30
三原集会所
- 24日(金)●胃がん検診 7:30~10:00
朝日ヶ丘会館



交 差 点 情 報

じょうほう
こうさてん

川本町役場総務課

〒696-8501

島根県邑智郡川本町大字川本545-1

☎ 0855-72-0631

Fax 0855-72-0635

Hp <http://www.kawamoto-town.jp/>

E-mail kawamoto@kawamoto-town.jp

町の人口	♂ 男	2,213人 (2,259)
	♀ 女	2,399人 (2,413)
	計	4,612人 (4,672)
	うち65歳以上	1,629人 (1,664)
	うち15歳未満	502人 (501)
世帯数	1,980戸 (1,996)	
平成14年4月1日現在の住民登録による ()は前年同月		

相 談

行政相談

5月20日から26日まで春の行政相談週間です。

年金や税金、道路、河川など役所の仕事について、苦情がある、困っている、どこに相談してよいかわからない、といったことはありませんか。行政相談員へ気軽にご相談ください。

行政相談員 柿 迫 政 徳

☎0855-72-0439

人権相談

人権擁護委員協議会では人権相談を開設します。気軽にご相談ください。

日 時 5月24日(金)

10:00~15:00

場 所 すこやかセンター

問合せ 役場住民課

☎0855-72-0632

就職フェアしまね2002

県内企業による面接や情報提供、公共職業安定所による就職相談を行います。

対象 来春、大学・短期大学・高等専門学校・各種専門学校を卒業する方（今春、大学等を卒業後、未就職の方も含む）や県内へU・Iターンを希望する方。

松江会場

5月11日(土) 13:00~16:30

くにびきメッセ

大阪会場

5月13日(月) 13:00~16:00

チサンホテル新大阪

東京会場

5月14日(火) 13:00~16:00

池袋サンシャインシティ

浜田会場

5月22日(水) 13:00~16:00

浜田ワシントンホテルプラザ

問合せ 島根県労働政策課

☎0852-22-5305

福 祉

平成14年4月から精神保健福祉サービスの相談窓口が変わりました

○通院医療費公費負担・精神障害者保健福祉手帳の申請窓口が役場になりました。

精神保健福祉法に基づくこれらの手続きは、これまで保健所で行っていましたが、役場でできるようになりました。

○ホームヘルプサービスなど福祉サービスの利用相談、調整、あっせんを役場で行います。

ホームヘルプサービスなど精神障害者居宅生活支援事業の利用相談や調整も役場でできるようになりました。

役場では、保健所などの関係機関と連携を図りながら、精神障害の方や家族を支援していきます。

問合せ 役場健康福祉課

☎0855-72-0633



国民年金

国民年金の届出は確実に

国民年金は、日本国内に住む20歳以上60歳未満の方が必ず加入する制度です。

加入者は、第1号、第2号、第3号被保険者に分けられ、本人はもちろん、配偶者の就職・退職・転職などにより加入種別が変わる場合には、その都度手続きが必要です。

届出を忘れると将来、年金額が少なくなったり、年金が受けられない場合もありますので、確実に行いましょう。

第1号被保険者／自営業者とその配偶者・学生など。

第2号被保険者／会社員・公務員などの厚生年金保険・共済組合加入者。

第3号被保険者／第2号被保険者に扶養されている配偶者。

※第3号被保険者の届出は、平成14年4月から配偶者（第2号被保険者）が勤務する事務所（または共済組合）を経由して、社会保険事務所に届けるようになりました。

問合せ 役場住民課

☎0855-72-0632

がんばれ!

川本高校OB(平成4年度卒業生)で結成する野球チーム「Get You!」(土居直文監督・18人)が予選を勝ち抜き、県代表として第24回西日本軟式野球大会に出場します。

大会は、5月17日~20日まで大阪市で開催。健闘を祈ります。

「優勝旗を持って帰ります!」
応援よろしく
お願いします」



メンバーからのメッセージ

子ども歳時記



ほら、みて

町内すべての小・中・高等学校で4月9日、入学式がありました。

真新しい教科書を受け取った子どもたちは、新しく始まった学校生活に胸を躍らせています。

photo: 川本町立川本小学校

広報かわもと 4月 No.372

発行/川本町役場 編集/総務課
〒696-8501 島根県邑智郡川本大字川本545番地1

TEL.0855-72-0631 FAX.0855-72-0635

編集後記

先般、東京で開かれたある福祉フォーラムに参加。ITを使い住民団体が地域の課題に取り組む事例発表では、国からモデル事業の指定を受けた全国二十団体の活動が紹介されました。出産後一カ月間の子育て家庭支



父が他界して大阪から川本町に戻り、現在、邑智郡浄化槽センターでお世話になり、自分の仕事に誇りを持って頑張っています。僕の趣味、それは神楽。小さい頃から父に連れら

「神楽」

私の趣味

リレーエッセイ

24

服部 純一

川本町久座仁

れて見に行っていた影響で神楽好きになり、川本神楽団に入って早四年、週三回の練習を楽しみに汗を流しています。

これからも、神楽をとおして川本町の活性化に貢献できるよう、団員一同、頑張っていこうと思っています。

何か皆さんにイベントなどがありましたら、川本神楽団に声をかけてほしいと思います。是非一度、見てみんさい！

神楽好きになりますよ。

援や、ステップファミリー(子どもを連れて再婚した家庭など)のネットワークづくり等々。自らニーズや課題に乗り出す住民と、その動きをすばやく敏感に察し、「新たな公共性」としてサポートする行政の相互関係に学ぶことの多い一日でした。(K)